

生徒の実態
<p>小山市内在住の生徒は5割強であり、宇都宮市や下野市から通学している生徒も多い。卒業後の進路は、就職希望者が約6割である。</p> <p>生徒は学校や各学科の行事に意欲的に参加するため、学校全体に活気がある。また、素直な生徒が多いが、規範意識が乏しい生徒、学習の習慣が身についていない生徒も少なくない。</p>

学校の教育目標
<p><教育目標> 心身ともに健全で地域産業の一翼を担う、志をもった指導的産業人を育成する。</p> <p><校訓> 寛 ・ 明 ・ 正</p> <p><目指す学校像> ○総合産業高校として、産業全般の基礎的な知識・技術と各分野の高い専門性を身に付けたスペシャリストを育成する学校 ○充実したキャリア教育をとおして豊かな人間性や倫理観・規範意識を高めさせ、地域産業を担う人材を育成する学校 ○豊富な学校・学科行事をとおして集団の一員としての役割を自覚させ、主体的に行動する力を育成する学校</p>

保護者の願い
<p>各分野における専門的な知識、技術を身につけ、目標とする資格を取得する中で、将来を展望し、本人の興味・関心・適性を踏まえた適切な進路を実現することを保護者は望んでいる。また、そのベースとなる社会人として必要とされる基本的な資質を養うことも保護者の切なる願いである。</p>

地域の実態
<p>小山市は総面積の約半分が田畑であり、また、首都圏に近いことから市内には多くの業種の工場が存在している。そのため、各学科の現場実習やインターンシップなどの受け入れには積極的な企業も多く、地域から学ぶ環境は整っている。</p>

総合的な探究の時間の本校の目標
<p><2年次総合的な探究の時間－北桜タイム－> 様々なテーマを通してキャリア教育の実践等を行い、自ら課題を見つけ、自ら学び・考え、問題を解決する資質や能力を育成するとともに、PDCAサイクルにより、学習効果を目指す。</p> <p><3年次 課題研究> 学科で学習した内容から特に興味関心の高い課題を設定し、その課題の解決を図る学習を繰り返すことで、問題解決能力や自発的、創造的な学習態度を育成する。</p>

地域の願い
<p>専門高校である本校は、地域産業の一翼を担う専門的な知識、技術をもった人材を育成することが最大の役目であり、地域産業との密接な繋がりもあることから、人材の輩出については地域からの期待が大きい。</p>

育てようとする資質や能力及び態度
<p>【学習方法に関すること】 課題の発見や解決を目指すために、目的に応じた情報を収集し、仮説を立て、検証方法を立案することで、多角的・実的に分析する力を身につけ、その成果を発表する力を養う。</p> <p>【自分自身に関すること】 課題解決をするために、真摯に課題に向き合い、解決に向けた探究に取り組むことで、自発的・創造的に実践できる力を養う。</p> <p>【他者や社会とのかかわりに関すること】 異なる多様な意見を取り入れることで、自他のよさを認め、理解することで自ら成長しようとする態度を育成する。</p>

内容
<p><2年次1単位 総合的な探究の時間－北桜タイム－> ○自分を知るを通して、あらためて自分を見直し、職業研究・進路研究・日本文化理解に生かす。 ○職業研究やインターンシップにおいて、働くことの意義や社会人としてのマナー等を学び、就業体験を行う。また、望ましい勤労観や職業観を育成し、進路についての意識を高める。 ○進路研究において、自己の適性・能力に気づき、将来の自分の在り方生き方について考える。 ○修学旅行において、日本文化や異文化への理解を深め、自ら学ぶ力を育てる。</p> <p><3年次 課題研究3単位のうち2単位を総合的な探究の時間で代替> ○3年間に学科の専門科目の内容から興味関心の高い課題を設定し、計画的に研究を重ねる。専門学科の集大成として研究の成果をまとめ発表する。</p>

探究活動
<p><2年次 北桜タイム> ○テーマ設定・調査・研究・発表で探究するためのノウハウを学ぶ ○自己の在り方生き方や進路について考察する活動</p> <p><3年次 課題研究> ○自己の興味関心に応じて設定した課題を追求する学習活動を重ねる。</p>

指導方法
<p><2年次 北桜タイム> ○他者と協同して課題解決問題する探究方法をサポートする。</p> <p><3年次 課題研究> ○個人・グループに応じた適切な指導の工夫 ○課題設定・情報収集・整理分析・まとめ表現を繰り返す行い、結論を導いていく</p>

指導体制
<p><2年次 北桜タイム> ○2学年担任を中心に、進路・学習・学科などとの相互支援体制を確立し、内容を検討実施する。</p> <p><3年次 課題研究> ○各学科ごとに複数教員での指導体制を取るため、ワークショップ研修を取り入れるなど、共通理解のもと指導にあたる。</p>

探究の評価
<p>○探究活動の状況や他者との協力の様子や積極性など自己評価も含めたリフレクションシートによる評価 ○ワークシートやレポート、製作物による評価 ○発表の内容や発表の態度などによる評価</p>

各教科との関連
<p>○課題設定や課題解決に必要な基礎学力を身につける。 ○情報収集の方法や分析・活用方法を学ぶ。 ○プレゼンテーションなどに必要な言語表現力を身につける。 ○日本の伝統文化とともに異文化についての理解を深める。</p>

地域との連携
<p>○地域や産業界の協力を得ながら現場実習やインターンシップ等を実施し、様々なものの考え方や生き方に触れ、それを踏まえて自己の在り方生き方を考える機会とする。</p>

就職先、進学先との連携
<p>○地域の商工会や各種産業界との連携を図り、地域の事業所での現場実習や民間講師による講座を実施する。 ○各学科関連の大学や専門学校見学・専門教科の講義などを実施する。</p>